

札幌彫刻美術館友の会会報

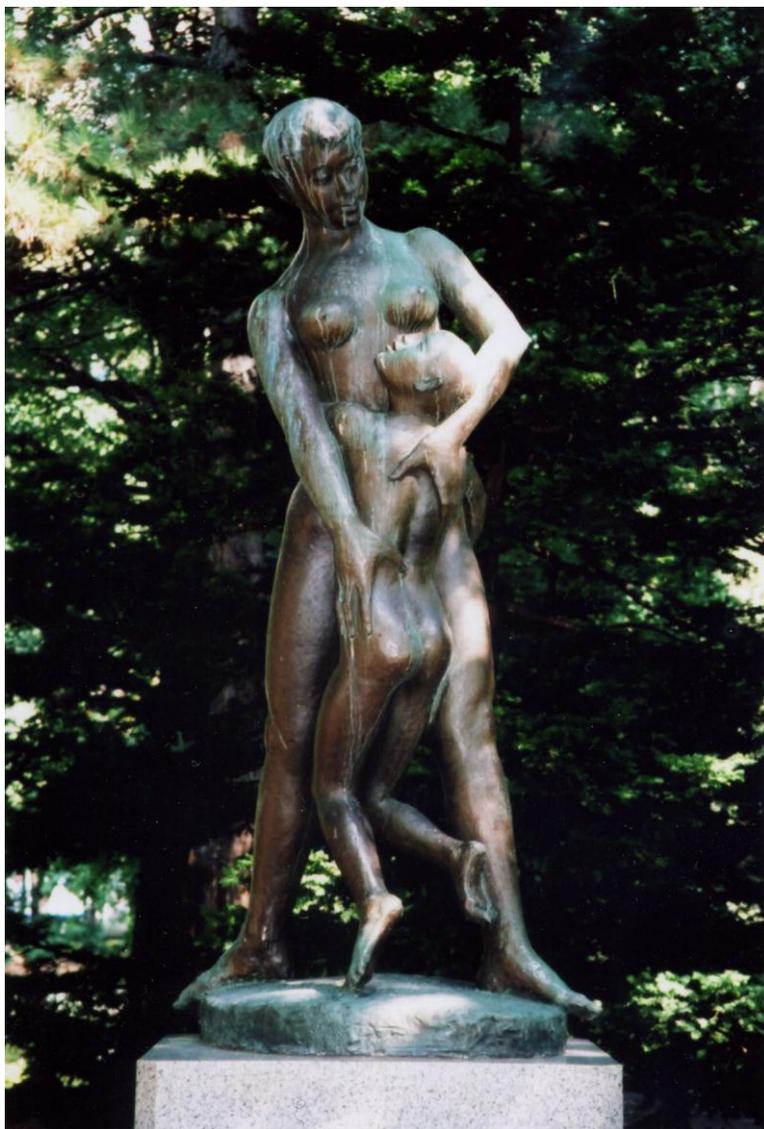
いずみ

第 27 号

2009 年 4 月 1 日発行

(題字: 國松 明日香氏)

本郷新彫刻シリーズ 27



《北の母子像》

札幌市中央区北3西6

北海道庁赤レンガ館前庭

(ブロンズ、高さ 210cm)

北海道の原始のたたずまいを残す樹林と池。それを背景に繰り広げられる母と子の触れあい。本郷新の温かい人柄がしのばれる作品である。

(写真・文 仲野三郎)

本郷新彫刻シリーズ 27「北の母子像」	表紙
目次 彫刻美術館行事予定	2
巻頭言 「『汝の車を星に繋げ』を胸に」	原子 修 ……3
「私の見たベトナム美術事情」	奥井登代 ……4-5
ミュージアムの窓辺から「おぼけのマールがきた美術館」	苔名直子 ……6
「山内壮夫の『労農運動犠牲者の碑』について」	小尾 陞 ……7
「佐藤忠良《大きなかぶ》レリーフのひみつ」	松原安男 ……8
にぎやかに 2009 年友の会新年会	9
短歌	福井貴美子 ……9
山内壮夫生誕 100 年周年記念 DVD 完成	10
会員交流プラザ、友の会総会予告、展覧会案内	10

本郷新記念札幌彫刻美術館展覧会・行事予定（4月—7月）

本館

札幌第2中学の絆

一本郷新・山内壮夫・佐藤忠良・本田明二
4月25日(土)—6月28日(日)

1972年に開催された札幌オリンピックの記念として札幌市内真駒内五輪橋に作品を制作した本郷新、山内壮夫、佐藤忠良、本田明二は偶然にも札幌西高校の前身、旧制第2中学の先輩、後輩でした。4人は北海道を代表する彫刻家です。生涯にわたり深い親交を持ち、お互いに研

鑽しながら作家活動をした4人の創作の軌跡を展望します。

記念館

本郷新の家族・周辺の人々

4月9日(木)—7月12日(日)

本郷の家族である妻や子や交友関係がうかがえる友人をモデルにした肖像彫刻を展示。

本郷新記念札幌彫刻美術館 札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709
 ◇開館時間：午前10時—午後5時◇休館日：月曜日（月曜日が祝日などの場合は翌日）◇交通機関：地下鉄東西線「西28丁目」駅下車 ジューアール北海道バス「環20」山の手環状線3番乗り場、「彫刻美術館入り口」下車、徒歩10分

「汝の車を星に繋げ」を胸に

— “芸術・文化フォーラム” の第2段階に—

原子 修 (詩人・“芸術・文化フォーラム” 共同代表)

あれは、一昨年春のことでした……創造都市をめざしてますます国際化の歩みを辿る札幌にふさわしい芸術文化の花を咲かせようとして、市民ボランティアやアーティストや文化関係者の有志が幅広く結集し、“芸術・文化フォーラム” を立ち上げたのは。

それから2年余の月日をけみし、これまでに、札幌圏という広域性をふまえつつ、行政や経済界の方々とも手をつないで、芸術・文化への理解と参加を広め、更には、観光や地域経済の活性化をも視野に入れた、公益性・公共性に富む活動をめざして参りました。

札幌市民会館の後継施設「(仮称) 市民交流複合施設」などを含む、これからの札幌の芸術・文化のあり方についての提言活動や、シンポジウムの開催、アートサロンの開講などを、継続的に行って参りました。

とりわけ、2年後に予定されている駅前通新地下道完成に伴う、地下道空間の芸術・文化的な活用の必要を指摘する声などをきっかけに、最近、創造都市札幌の発信力を高め、あわせて観光を含む地域経済の活性化に結びつくような国際総合芸術祭を札幌圏で開催してはどうかという声が、あがって参りました。

いわば、札幌と札幌圏の新しい目玉を創

造しよう、との声です。

そのような、未来をめざす新しい動きの盛り上げに、私たち“芸術・文化フォーラム”も、一役買うべく、基金造成をも含めた「ACF (芸術・文化フォーラム) パーティー “あ”」を5月28日(木)午後7時より、札幌プリンスホテル・国際館パミールで開催することになりました。ちなみに、“あ”は人類が最初に発した言葉です。“あ”はいのちのはじまり、世界のはじまりです。

これまで、とかく、行政依存に流れがちな傾向の否めなかった、札幌の芸術・文化のあり方を、市民主導の方向に切り替え、多様・多彩な芸術・文化関係者に共通の広場を提供していくことをめざすACFも、この度のパーティーを機に、無限の未来をめざして、第二段階の歩みに入ろうとして居ります。

「汝の車を 星に繋げ」

これは、アメリカの詩人・ロングフェローの詩句です。

わたし達も、「理想はひとり青年の夢想ではなく、また単なる抽象的観念でもなく、われらの生活を貫いて、いかなる日常の行動にも必ずや現実の力となってはたらくものである」という、政治学者南原繁の言葉を胸に秘めて、歩み続けたいと思います。

私の見たベトナム美術事情

ダム・ダン・ライ グループ展に招かれて

奥井 登代 (会員)

突然のベトナム旅行

2月13日、私たち夫婦は成田からベトナムに向けて機上の人となっていた。2カ月前まで思っても見なかったベトナム旅行。そのきっかけを作ってくれたのは札幌で活躍しているベトナム人のアーティスト、ダム・ダン・ライさんだった。彼はOKUI MIGAKU ギャラリーが開設してまもない頃、ギャラリーでジャズとアートのコラボレーションを繰り返し、私たちをワクワクさせてくれた人だ。彼と私たちを繋げてくれたのは息子だった。彼の奥さん、洋子さんは札幌西高の美術部の後輩なのだ。そのライさんが参加する PLUS 1 というグループがハノイで展示会をするという。しかもそのメンバーの一人が主人の勤めていた札幌旭ヶ丘高校の美術教師の齋藤周さん。ライさんからお誘いを受け急きょベトナム旅行を計画した。

真夜中にハノイの空港に到着。ライさんと先に到着していた齋藤さん、そして日本画家の北口さんが私たちを出迎えてくれた。PLUS 1 のメンバーは15日のオープンに向けて準備に入り、私たちはハロン湾、ハノイ市内観光。ハノイの町にはオートバイが溢れていて、信号も少ないので、道路を横断するのは命がけという感じだった。一家5人が乗ったバイクなんて珍しくない。彼らのたくましさには感動さえ覚えた。

ハノイ市内の公園は早朝、太極拳などを楽



ハノイ市内の公園に建つ
ベトナム戦争記念像

しむ人たちでにぎわい、そこには必ずといっていいほど解放戦争を記念した大きな像があった。

ハノイ美術博物館には、古い時代の仏像などの展示から最近の絵画まで展示されていたが、パンフレットもなく、説明もベトナム語のみだった。絵画は戦争画やその時代の生活を描いたものが多く、ベトナムの絵画は戦争の歴史が色濃く影響していることを感じた。

しかし、市内を歩くと、あちこちに小さなギャラリーがあって、模写や風景や人物などが山積みになっていた。お店の中で若い画家が写真を見ながら絵を描いている風景も見られた。こんなにギャラリーがあって、



小さな画廊で絵を描く若い画家

やっていけるの？と洋子さんに聞くと、売れるのよね、という返事。街角でオートバイをイーズル代わりにして写生をしている姿もあり、フランスの影響もあるといわれているが、ベトナムの一面を知った思いだった。

PLUS 1 in Hanoi

さて、今回の目的である PLUS 1 の展示会場はベトナム美術協会のギャラリーで旧市街の一角にあった。天井は高く、6人のアーティストのブースがある広い会場だった。6人の個性が心地よいハーモニーを奏で、すてきな空間を作っていた。テレビ局が3局、新聞社も訪れ、熱心に取材。オープニングにはベトナム

美術協会の会長、副会長も参加。ベトナム人はもちろん、ベトナム在住の日本人も訪れ、大変盛況だった。ベトナムでは PLUS 1 のような様々な材料を使ったインスタレーション作品の展示は珍しく、新聞の美術評も大変好意的だったそうだ。

会場ではベトナム美術協会の会長さんに話を聞くことができた。ベトナム美術協会は 1952 年、100 人で始まり、戦争中も保護されていたそうだ。今は会員数 1500 人、政府からの予算が 3000 万円で、うち協会の維持費が 1000 万円、芸術活動に 2000 万円使用。協会の援助で若い画家の個展を年間 300 回開いているとか。協会には出版社も持っているそうだ。ただ、



オープニングで挨拶するベトナム美術協会副会長

PLUS 1 の展示会場の 1 階でベトナム画家の個展が開かれていたが、政府の役人が見に来ていたとのこと。表現の自由は完全には保証されていないのかもしれない。実際、有能な画家のほとんどはその活躍の場を欧米に求めているようだ。美術協会がベトナムの芸術の発展にブレーキをかけているという意見もあるらしい。ライさんはあえてそんな美術協会に入り、ベトナムの美術の発展に貢献したいと考えていると、洋子さんから聞き、ライさんらしいと感心。

フエには野外彫刻公園が

ハノイからフエに向かったが、フエでのガイドは偶然にもライさん夫妻の知人だった。フエは人口 40 万人だが、大学が 7 つもあり、学生の街でもある。ライさん夫妻もフエの芸術大学出身である。2 年前まで芸術大学は王宮の中

にあったそうだ。そのためか、王宮の中の宝物を展示している横にギャラリーがあって、芸術大学出身者の作品を売っていたのには驚かされた。その絵はハノイと異なり、抽象画や心象画が主で興味深かつ



フォン川河畔の野外彫刻公園

た。

さらに驚いたのはフエの中央を流れるフォン川の河畔に野外彫刻公園があったのだ。きれいに整備されていて、若者たちの憩いの場になっていた。何年か前にフエで国際彫刻シンポジウムが開かれたときの作品だそうだ。若く、力強い作品が並んでいて、この国はこれからだという印象を強く感じた。その意味でもハノイでの PLUS 1 の展示会の意義は大きかったように思う。

ライさんの個展

最後は再びハノイでライさんの個展のオープニングに出席した。日本から送った(ヤマト)

作品が行方不明になったらいい。そのため急きよ実家で作った作品を展示したというが、ライさんらしさが出



野外彫刻公園の石の彫刻

た個展になっていて、若い人がたくさん訪れ、熱心にライさんに話を聞いていた。いつか北海道にベトナムからアーティストを招いての国際交流があってもいいなあ、と思いながら帰国の途に着いた。

おばけのマールがきた美術館—地元根付くために

苫名直子（道立三岸好太郎美術館 学芸員）



観光客の美術館？

十数年前の統計ですが、当館の入館者の半数近くは道外から訪れた人たちでした。近年は詳しく調査したわけではありませんが、作品解説を行っているボランティア解説員の報告をみると、このサービスを受ける来館者の7-8割は道外勢といった印象です。「全国的に認知度の高い画家なのだ」と納得する一方で、この美術館が観光客だけのものになってしまうのではという危機感を抱いてしまいます。

郷土の画家の発散する元気をもらおう

三岸好太郎（1903-34）は、札幌出身の洋画家。持ち前の開拓精神とロマンティストとしての資質により清新な画風を次々と切り開き、大正末期から昭和初期の画壇でめざましい活躍をみせましたが、惜しくも31歳の若さで世を去っています。その遺作は彼の死後30年余りを経て、節子夫人（洋画家・三岸節子）ら遺族によって北海道に寄贈され、これが契機となって本道初の美術館・北海道立美術館が誕生しました。その後さまざまな経緯を経て、現在、知事公館の敷地の一角で道立の個人作家美術館として活動を続けています。三岸のアトリエのイメージを生かしたモダンな感覚の空間で、彼の変化に富んだ画業をたどることができるようになっていきます。

さて、全国の美術ファンに訪れていただいているのは嬉しい限りですが、三岸の存在とその画業は、何よりもまず地元・北海道の人たちが認識すべきものではないでしょうか。開拓精

神やロマンティシズムというまさしく北海道人たる香りを強烈に発散しつつ、中央の舞台で輝かしい光彩を放った彼の画業には、今はしばみがちな北海道が本来もつエネルギー、創意が満ち溢れています。この郷土を代表する画家を知り、そこから刺激・元気を得る機会を逃す手はありません。

子どもたちに伝える

当館を地元の人々に親しんでもらうため、セミナーや音楽会などさまざまなイベントを行っていますが、何より将来を担う子どもたちに、この美術館を訪れてもらうための取り組みに力を入れています。

昨年末に『おばけのマールとちいさなびじゅつかん』という絵本（絵・なかいれい、文・けーたろう、中西出版）が出版されました。円山に住むかわいなおばけのマールが当館にやってきて、三岸作品に登場するキャラクターと楽しく遊ぶうちに、じっくり絵をみるすばらしさに気づいていくというすてきなお話です。三岸作品を巧みに翻案したイラストの美しさ・かわいらしさは、小さな子どもたちにとっても心ひかれるものです。マールフアンの子供たちが、マールが来たこの「宝石箱のような」美術館を実際に訪れて、三岸作品と向き合ってくれることを願ってやみません。

◇道立三岸好太郎美術館 札幌市中央区
北2条西15丁目 ☎011-644-8901
◇開館時間 9:30—17:00 月休館

山内壮夫の「労農運動犠牲者の碑」について

小尾 陞（会員）

山内壮夫の初期の作品である「労農運動犠牲者の碑」は札幌市豊平区の月寒公園に接する北西の位置に設置されている。この碑は大通西9丁目の木田茂晴（建立時は北海道で唯一の自由法曹団弁護士で北海道勤労者医療協会創立時の会長）宅の庭に建立され、後に移設されたもので、碑の右側には碑についての次の由来文が掲示されている。

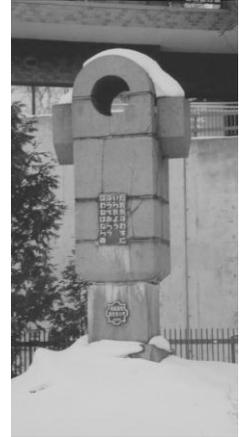
「かつて専制と圧迫が支配する北海道において、生活と権利、平和と民主主義のためにたたかい、官憲に捕らわれ拷問を受けて惨殺された人たち、あるいは灰色の獄中で、あるいは迫害と尾行に家郷を迫られ窮乏裡にその生涯を閉じた人たち、戦後解放運動の先頭にたつたたたかい倒れた人たち、これら先駆者の功績をながく讃え、その不屈のたたかいにまなび遺志と過去を繋ぐ誓いの碑として、1949年、全道のはたらく人びとの決意をあつめてこれを建立し、1966年9月この地に移す」この碑の管理は日本国民救援会北海道本部が行い、建立記念日である6月29日には毎年、北海道の解放運動無名戦士合葬祭が営まれている。

碑には「だれが斗わずにいられよう 斗うであろう 斗わねばならぬ」の文がはめ込まれているが、これは当局に抗議する遺書を残して1948年、狩勝トンネル入り口で列車に身を投じて憤死された国労新得分会柚原秀男闘争委員長に対する「柚原委

員長に捧ぐ」という追悼詩の一節からとられたもので、国鉄労働組合葬には2千余名の参加者があったと記録されている。当時はマッカーサー指令による公務員のスト権、団体交渉権の剥奪があり、それに抗して

多くの職場で職場離脱戦術がとられ、新得機関区分会の労働者は「民族独立柚原青年行動隊」を全員で組織して職場放棄、各地にオルグにでた。この闘争は北海道全域から東北各地、さらには長野に広がり、10月末までの職場離脱者は1418名にのぼり、4046本の列車が止まり、参加した労働者の大部分に逮捕状が出され、解雇された。「碑頭部のまるいくり抜きは狩勝トンネルであり、労働者の闘いの場であり、全体として労働者の尊厳とヒューマニズム、人間そのものの表現、くり抜きから展望される広い高い青空は、労働者階級の勝利と解放をうたいあげている」と説明されており、碑全体はハンマーの形をとっているが、私は十字架をも意味しているのではないかと思っている。

なお、碑文は現在、黄色となっているが、さびて読みにくくなった碑文を読みやすくするためにS氏が数年前にペンキを塗ったもので、もともとは着色されていなかった。



佐藤忠良《大きなかぶ》レリーフのひみつ

松原 安男(会員)

昨年(2008年)の9月27日、札幌芸術の森野外美術館の敷地内に「佐藤忠良記念こどもアトリエ」がオープンしました。この施設は、上田文雄札幌市長が第2次札幌街づくり計画の目玉として、作品購入費を含め総額3億6千万円をつぎ込んだ「子どもが芸術に触れ、作品を創作したり、読み聞かせのできる機能を持つ体験型ギャラリー」施設です。

ここのアトリエのホールには、佐藤忠良のレリーフ《大きなかぶ》が展示されていますが、これにまつわるエピソードをお話しましょう。

私は2004年、友の会の会員の中にも参加された方がおられると思いますが、札幌彫刻美術館の主催する「東北彫刻めぐり」に参加し、宮城県立こども病院を見学する機会がありました。彫刻と病院？ どんな関係があるのか奇異に感じたものでしたが、この病院のエントランスに、佐藤忠良の《大きなかぶ》のレリーフが設置されているので、それを鑑賞しようというものでした。すなわち、札幌芸術の森の「こどもアトリエ」と同じ作品を、4年も前に私は鑑賞する機会を得ていたのです。

ご存知のように、福音館書店から発行されている「おおきなかぶ」の絵本は、1966年の初版から現在も続いている超ロングセラーの絵本ですが、レリーフは、その絵本の24～25ページをモチーフとした作品です。因みに絵本は現在まで、普通版が137刷、240万部、大型本が12刷、1万6千部発行されているということですから驚きです。

レリーフを観てすぐ気づくことは、画の構図が絵本のものとは逆になっていることです。この理由について、子ども病院を案内していただいた当時の大井龍司院長が解説をしてくれました。病院の設計上、患者さんたちが玄関口から入ると、右側にある受付窓口へと流れるようになっているので、原画の構図のままだと、患者の流れと逆の構造になる。そこであえて原画とは逆の構図になっているというのです。

また、レリーフの大きさは、ドア1枚分にも相当する大きさですが、展示された高さは、子どもの目線に対応した高さになっていました。これも、子ども専門の病院という性格上、子どもの目線に合う高さにしてあるということでした。

これらのことは、大井院長が佐藤忠良のアトリエを訪問して作品制作を依頼した際、同席していた愛弟子の笹戸千津子の提案によるものということでした。佐藤忠良は笹戸の提案に対して何一つ異論をはさむことなく、すべてがその場で決まったということです。

佐藤忠良の子どもに対する愛情、思いやり、そして笹戸千津子の、師の心を見とおした適切なアドバイスが、《大きなかぶ》のレリーフに込められているというわけなのです。

どうぞ、札幌芸術の森野外美術館の敷地内にある「佐藤忠良記念こどもアトリエ」で、佐藤忠良の《大きなかぶ》のレリーフをご鑑賞ください。ここでも子どもの目線を意識した高さで展示されています。また、レリーフの基となった絵本も館内で見ることができます。

にぎやかに 2009 年友の会新年会

ロマネスク建築の芸術に浸り、南京玉すだれの芸にわく

彫刻美術館友の会の2009年新年会が1月24日、札幌市中央区の札幌すみれホテルで開かれた。新年会に先立って行われた恒例の講演会には常田益代北大教授が招かれ、「ロマネスク建築一天使と悪魔の住む世界」と題して講演、会場に感銘を与えた。また、会員も加わって披露された南京玉すだれの余興をはじめ、常田教授の著書などが当たる抽選会もあり、会食をはさんで3時間の充実した時間を楽しんだ。

講師自身が撮影したたくさん
のスライドを使い、スペインなどヨーロッパ各地に点在する中世のロマネスク様式教会に見られる柱や壁に彫られた天使と悪魔の彫像などについて分かりやすく解説、聴衆を中世の世界に誘い、時の経つのを忘れさせる講演となった。



新年会には約 50 人が出席、竹津宜男会員の開会の挨拶で始まり、昨年同様、花の名前を付けた各テーブルで食事を挟みながら和やかな会話が弾んだ。お目当ての余興では会員の長峯慰子さんから「健康生きがい玉すだれ同好会」のメンバーによる趣向を凝らした南京玉すだれの芸がにぎやかなはやしに乗って見事に演じられ、参加者の目を楽しませた。

さらに、常田教授の著書「図説ウイリアムモリスーヴィクトリア朝を超えた巨人」、船迫吉江会員の植物画などが当たる抽選で盛り上がり、会員の渡辺行夫さんの挨拶で会を締めくくった。最後に参加者全員に植物画家、須田靖子会員の豪華な植物画集がお土産に渡され喜ばれた。

短歌 福井 貴美子

はるばると音威子府を訪ね來ぬ
緑の大地いくつも越えて
チップ材敷きたる回廊すすみゆく
砂澤ビッキのアトリエ見むと
栓の木にビッキが魂こめにつつ
彫りしカムイミントラの妙
山腹にジャンボ南瓜のアト見ゆ
特産知らず道北の里
彫刻家ビッキは愛称本名を
砂澤恒雄とわれは知りたり
ビッキ逝きて久しきアトリエサンモアを
訪ねテーマの風と木に漬かる
ビッキ君の命果てし日のデスマスク
畏れつつ入る灯せる部屋に
斧やのみ振りし時も付けぬたる
ふときビッキの指輪のこりぬ
トームポール立てしビッキは言ひましぬ
自然のをので削りゆくべし
ビッキ作「イナイイナイバア」とふ彫刻に
片目つぶれる人魚愛らし

(短歌誌「原始林」から転載)

山内壮夫生誕 100 年記念 DVD 完成

彫刻家・山内壮夫生誕 100 年を機に友の会が 2008 年度の事業として取り組んでいた DVD 「山内壮夫生誕100周年記念『郷土の彫刻家 山内壮夫の軌跡と芸術』」が完成した。

友の会としては5作目の映像作品。山内の半生をさまざまな資料でたどるほか、札幌市内に点在する山内の作品をきめ細かに追い、16 分の映像作品としてまとめた。希望者は橋本会長まで。

会員交流フラザ

石川博司さん

北海道新聞朝刊の名物コラム「朝の食卓」の執筆メンバーに今年 1 月から加わった。初出は 1 月 9 日。「まだ小学生」の題で、定年退職した時点を小学校入学時と考え、シニア生活でのさまざまな出会いを 1 年生の気分で楽しんでいる思いをつづった。2 回目は 3 月 14 日に掲載された。今後の健筆に期待。

渡辺行夫さん

本郷新の旧アトリエがあった隣接地、小樽市銭函西春香に約 9 千坪の敷地を確保、野外彫刻を核にした多目的公園造りをめざし、協力者の参加を呼びかけている。

予定地は日本海のワイドな風景が広がり、庭園の廃墟が不思議な雰囲気をかもし出す。ここに思い思いの作品を展示して発表の場にしようというもので、個展をはじめグループ展、音楽、芝居などのイベントを開催しようという。6 月までに道路、駐車場整備、作業小屋、電気、水道などの設備を造成、7 月をめどにオープンしたい考え。関心のある人は下記まで問い合わせを。〒0470261 小樽市銭函 1 丁目 33-10 渡辺行夫 (☎0134-62-4942)

友の会 2009 年度総会は 5 月 16 日

札幌教育文化会館で

札幌彫刻美術館友の会の 2009 年度総会が 5 月 16 日午後 1 時から、札幌市中央区北 1 条西 13 丁目の札幌市教育文化会館で行われる。総会に引き続きシンポジウムも開催される。総会は新年度予算案、事業計画案などを審議する。また、シンポジウムは「デジタル時代のミュージアム—新しい市民文化の潮流をめぐって」をテーマに話し合う予定。

展覧会案内

■第 36 回美工展

4 月 15 日[水]—19 日[日] 札幌市民ギャラリー4、5 展示室(2 階) 木工作家の羽賀隆会員が出品。

■第 39 回 OKUI MIGAKU ギャラリーコンサート

ノルウエーの風 katharsis quintet

4 月 5 日[日] 開場 14:30 OKUI MIGAKU ギャラリー (札幌市中央区旭ヶ丘 5 丁目 6-61 ☎011-521-3540) 入場料 1500 円(中学生以下無料)

■第10回グループ「環」絵画展

6 月 23 日[火]—28 日[日] 大丸藤井セントラル (中央区南 1 西 3) 道展会員でもある橋本禮三会員が出品。

■鈴木吾郎古稀展<テラコッタ自選展>

6 月 22 日[月]—27 日[土] 札幌・時計台ギャラリー (中央区北 1 西 3)

札幌彫刻美術館友の会会報「いずみ」No.27

2009 年 4 月 1 日発行

発行 札幌彫刻美術館友の会事務局

(札幌市中央区南 9 条西 4 丁目 7-1-1003)

発行人 橋本 信夫

編集スタッフ 斎藤美年子 : 011-643-7246

大内 和 : 011-884-6025